

「癌」食べて治せ NO.6

大腸癌、初期ならショウガが有効

森 秀樹

岐阜大学医学部教授

「癌」の予防は、第一に食生活、次いで「丹羽SOD様食品」

酸素は、私たちに必要不可欠なものです。しかし、酸素から過剰な活性酸素ができると、その酸化作用で細胞の膜や核を傷つけます。その結果、動脈硬化や糖尿病、癌など老年病を引き起こします。

癌を引き起こす主因といわれる活性酸素への対策は、先ず日常の食生活に注意することが先決です。本シリーズでは、食生活から見た「癌予防」のポイントについて掲載します。しかし、食事だけでは、癌を予防できないことも事実です。そこで、増加する活性酸素対策（癌予防対策）に、「丹羽SOD様食品」を摂取するのも一方策です。

Q:身近な食品の中で、近年増加している大腸癌に有効なものはありませんか？

A:癌の中でも、食べ物の影響を最も受けやすいのが、大腸癌だ。最近、大腸癌が増加しているのも、高タンパク、高脂肪の食事に加え、食物繊維の摂り方が減少したことが大きく影響していると考えられている。

だが、反対に食べ物の中には、大腸癌を防ぐ方向に働く物質も少なくない。森教授の研究室では、こうした大腸癌の予防物質の探索を行ってきた。

その中で、とくに注目したもののひとつが、ショウガだった。「ショウガは、昔から食用だけでなく、薬用にも使われ、健胃作用や発汗、

日本SOD研究会がおとどけする  
健康増進と病気の  
老化予防のQ&A

No. 18



このQ&Aは、病気の90%に関するといわれる活性酸素、活性酸素を除去する丹羽SOD様食品など、さまざまな症状や疾患について、最新の情報を掲載しています。定期的に発行されますので、毎号お集めになりますと、健康管理ノートができます。このQ&Aは、最寄りの丹羽SOD様食品取扱店でお求めになれます。

解熱作用も知られていません。そこで、このショウガの主成分であるジンゲロールで大腸癌の抑制実験を行ったのです。」

Q:ショウガの主成分ジンゲロールは、動物実験では大腸癌にどの程度有効だったのですか？

目次

- 大腸癌に有効な食品は？
- ショウガは大腸癌に有効？
- ショウガの癌抑制機序は？
- ショウガの摂取量は？
- ショウガ以外の有効食品は？

SOD製剤による臨床報告  
転移した肝癌が消失

【A】：シヨウガには独特の辛味があるが、その主成分がジンゲロールだ。

大腸癌の発癌実験

実験では、ラットをいくつかのグループに分けて、大腸癌の発癌剤を、3週間に2回皮下注射した。そして、グループごとに癌発生の抑制効果を調べるために、エサの中にそれぞれ6種類の化学物質を混ぜた。

実験 普通のエサ

実験 化学物質1〜6…この中のひとつがジンゲロール。

こうして各化学物質が、大腸癌の発生をどれだけ抑制するか、その効果をみたのである。そして、1年後の結果は下記の通り。

実験 普通のエサ…発癌剤を注射しただけのため、74%のラットに癌が発生していた。また、できた癌の個数は、平均1.07個であった。

実験 化学物質1〜6…エサの中に化学物質を混ぜた、このグループでは、いずれも癌の発生率が低く抑えられていた。中でも癌抑制効果が一番高かったのがジンゲロールだったのである。

ジンゲロールを食べていたラットでは、癌の発

生率は、47%と、普通のエサの3分の2に抑えられていた。できた癌の個数を見て、約半分になつていた。エサの中にジンゲロールを混ぜると、明らかに、発癌率が抑制されていたのである。

【Q】：シヨウガの主成分ジンゲロールは、発癌のどの段階で、抑制効果を発揮するのですか？

【A】：この結果から、森教授は「ジンゲロールには、細胞の遺伝子が発癌物質に変わる段階で、発癌物質を解毒代謝する、つまり発癌物質の働きを阻害する働きがあるのではないか」と考えている。

細胞の癌化は、細胞の遺伝子が傷つくこと（イニシエーション）から始まり、さらに傷ついた細胞の増殖が促進されることで一人前の癌に成長していく。ジンゲロールは、この最初の段階、つまりイニシエーションの段階

を阻止するのではないかと考えられるのである。



【Q】：シヨウガの主成分ジンゲロールの、癌抑制機序は？

【A】：シヨウガに含まれるジンゲロールは、大腸癌の発癌剤による発生率を低く抑えることが動物実験で明らかにされた。では、どのような仕組みで、ジンゲロールは癌の発生を抑えるのだろうか。

森教授は、次のような可能性を考えている。「癌はさまざまな段階を経て発生すると考えられており、発癌抑制物質もそのさまざま段階に作用すると考えられています。例えば、環境

中の発癌物質が体内に入ると、体内で代謝、活性化されて本当の発癌物質として働くようになる。今回の実験でも、発癌の早期にジンゲロールを投与していますから、この代謝活性化の過程を抑えるのではないかと、思います。」 発癌物質の働きを抑え込む働きがあると考えられるのである。

【Q】：癌の抑制のために、シヨウガをどの程度食べればよいのですか？

【A】：ところで、ここでもう一つ重要なことは、シヨウガに含まれるジンゲロールがかなり多いという点だ。動物実験で癌予防効果が認められた物質でも、実際には食品に含まれる含有量が極めて微量で、日常生活で食べる量からかけ離れている場合も少なくない。

しかし、ラットのエサに混入されたジンゲロールは、0.02%というごく少ない量だ。ここが重要なのである。ラットの体重は300gほどで、一日12

gほどのエサを食べる。シヨウガには、約1%のジンゲロールが含まれるので、これを人間が食べるシヨウガに換算すると約50gほどの量になる。

シヨウガは大量に食べるものではないが、このくらいで効果があるならば、「薬味や煮物など、日常的に人が食べる量でも、十分に癌予防効果が期待できる」というのである。

◎：シヨウガ以外の食品で、大腸癌の抑制効果のあるものは？

▲：ただし、毎日、シヨウガを50gも食べるのは逆効果かもしれない。野菜をはじめ、食材にはさまざまな成分が含まれている。中には、癌を抑制するものもあるが、変異原性や癌の発生を促進するものもある。

同じ物質でも、多過ぎると別の臓器に毒性をもたらし、癌の発生や増殖を促すこともありうる。つまり、「焼け焦げ、カビ・ワラビなど発癌性がある悪いものを避け、何種類も組み合わせる食べるのが一番いい」

のである。

大腸癌の抑制作用も、シヨウガだけでなく、カリフラワーやブロッコリーといったアブラナ科の植物など、さまざまな物質で認められている。その効果を生かすためにも、いろいろな食品をバランスよくとることが大切なのである。

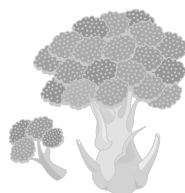


一口メモ

カリフラワーの大腸癌抑制効果は、微量イオウ化合物によるもの。イオウを含む化合物は、レタスやカリフラワー、ブロッコリーなど十

字花植物に多く含まれ、いくつかの臓器で発癌を抑制することが知られている。

森教授はカリフラワーに含まれるイオウ化合物が発癌剤による大腸癌の発生を強く抑制することを発見している。ただし、これらの食材中のイオウ化合物は極めて少ない。



本文は、「癌」食べて治せ(日刊スポーツ・No.16)から、抜粋・引用しました。

バックナンバーについて  
日本SOD研究会では、これまでに発行した「Q&A」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。  
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会(〇四九二(五五)八七二八FAX兼用)までご連絡ください。

命と健康のために  
**SODロイヤル**

SODロイヤル(丹羽SOD様食品)は、丹羽博士が長年をかけて開発した、天然の植物・種子を素材にした天然製剤で、副作用などの心配は皆無の健康食品です。

国際製法特許取得



SOD製剤による臨床報告

本症例はすべて、丹羽博士が院長を務める土佐清水病院での、末期癌を含めた重症の癌患者の症例です。博士が長年かけて研究開発した**天然SOD製剤BG104**および**天然低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)**を治療の主体とした症例を掲載しています。小誌の掲載内容は、丹羽博士の著書「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」から、抜粋・引用しました。治療の詳細を知りたい方は同書を参考にしてください。

転移した肝癌が三ヶ月で消失

M・O 67歳 男性 直腸癌 肝臓に転移

【現症ならびに来院時所見】

平成五年一月頃より血便がみられ、某大病院にて直腸癌と診断。平成五年八月に大腸癌の切除を行い、肝転移も発見された。抗癌剤の治療に抵抗し、全身衰弱激しくなり、平成六年六月抗癌剤を拒否し、自然回帰の治療を求めて本院に来院。

来院時には顔色不良、るい瘦、衰弱著明。BG104と低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)を所定の量(省略)処方し、入院をすすめたが家庭

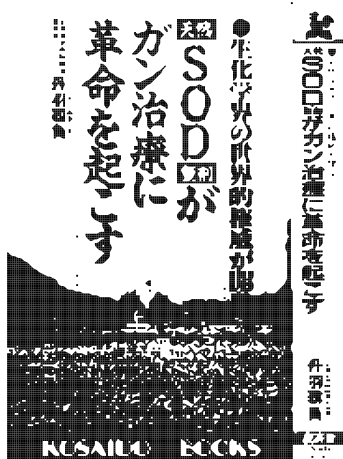
の事情で外来治療を行った。

【臨床経過】

治療後、徐々に衰弱も軽減し、顔色も回復。平成六年十一月には、ほぼ健康体に回復し、某大病院第二外科の腹部CTで三ヶ月前に認められた肝転移腫瘍は消失していると言われた。現在、通院治療を受け、平成七年四月にはほぼ治療し、社会復帰に至っている。

【考察と結論】

現代西洋医学の治療でも、直腸癌は手術をする、かなり高率に治癒し、社会復帰するものであるが、肝転移をしたものは、非常に予後が悪く、ほぼ絶望であることが常識である。本患者は外来治療にかかわらず三ヶ月半で転移した肝臓の腫瘍が消失し、八ヶ月後には社会復帰した。BG104の著効症例である。



[当商品には合成着色料・合成保存料は使用していません]

丹羽博士が長年をかけて研究・開発し、多くの学会や研究機関で臨床成績が確認されているSODロイヤル(丹羽SOD様食品)を始めとする、活性酸素を除去するルイボスTX、スーパールイボスティ、SODクリームなどは、下記の取扱店でお求めになれます。

お問い合わせ先

製造・発売元  
株式会社フジ流通システム  
埼玉県富士見市鶴馬3489-1